



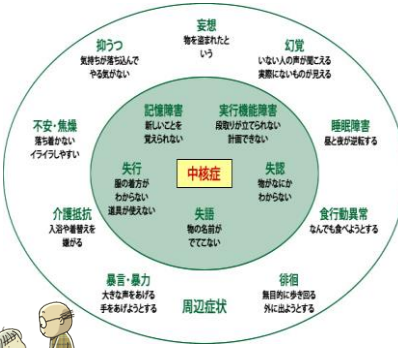
なごみ つうしん

2014年
No.10

認知症について

認知症とは脳や身体の疾患が原因で記憶力や判断力などに障害がおこり、普通の社会生活がおくれない状態のことを言い、その原因と言われている疾患は「アルツハイマー病」・「脳血管障害」の二種類が代表とされています。そのどちらのタイプもその症状は、ほぼすべてにの認知症の方に見られる「中核症状」と、人によって現れたり現れなかったりする「周辺症状」に分けることができます。中核症状は、記憶と見当職（基本的な状況把握）の障害が代表的で、日常生活に大きな問題にならないケースも多いとされています。それから周辺症状は、言動が粗暴になり、介護拒否、徘徊、暴力をふるうなどの言動が出てくるとされています。

しかし、アルツハイマー病や脳血管疾患によっておこる脳の病的変化だけで症状が決まるわけではありません。認知症の症状には体調や周囲の変化など様々な変化が関係していると考えられます。そして、やがて認知機能が低下していくと、自分自身が認知した状況と、現実に自分が置かれている状況のギャップに混乱してしまったり、焦燥感を感じたりといった症状が出てきて、それが継続すると、不安感につながり、その方にとって大きなストレスになってしまいます。まずは本人が自分の弱点を理解し立て直そうとする意欲が大切です。それに対してのアドバイスなどに耳を傾けなくなるのは認知症の予兆かもしれません。誰しも自分の弱点を指摘されるのは嫌なことですが、これを素直に受け止め克服することになります。



団子パーティー

2月5日水におやつレクとして「団子パーティー」を開催しました*赤・白・緑の三色団子とみたらし団子をご用意し、ホットと一息つけるよう一緒に温かいお茶をお出ししました。出来立てでまだ温かい団子を頬張りながら「おいしいわあ」とにこにこ笑顔で召し上がられていました。今回も皆さんに喜んで頂けて本当によかったです◎



翔大の読んだ本、買った本。

今回から始まりました支援相談員の衣笠がお送りする「愛読書紹介」のコーナー！読書好きが講じてこのようなコーナーを担当させていただくことになりました。これからよろしくお願ひします！
そして第一回目にご紹介するのは...

『ペコロスの母に会いに行く』 著／岡野雄一

◎グループホームに入所している作者の母とのやり取りを描いており、笑えて、温かくて、どこか切ないそんな一冊です。私自身も感動と学びがあり、認知症をお持ちの利用者様への関わり方について考えさせられました。

この本はコミック形式になつていてとても読みやすくなつていますし、映画が苦手な方も興味のある方は是非見てください！



介護老人保健施設
パークサイド
なごみ
医療法人河和会
大阪市東住吉区公園南矢田3-19-12
tel 06-6606-2211
http://psnagomi.com